

2019 年

【英文原著・症例報告】

- 1) Kadomura S, Takekuma Y, Sato Y, Sumi M, Kawamoto K, Itoh T, Sugawara M.: Higher incidence of acute kidney injury in patients treated with piperacillin/tazobactam than in patients treated with cefepime: a single-center retrospective cohort study. *J Pharm Health Care Sci* 2019 Jun 12;5:13. doi: 10.1186/s40780-019-0142-6.
- 2) Imai S, Yamada T, Kasashi K, Ishiguro N, Kobayashi M, Iseki K.: Construction of a flow chart-like risk prediction model of ganciclovir-induced neutropaenia including severity grade: A data mining approach using decision tree. *J Clin Pharm Ther* 2019 Oct;44(5):726-734. doi: 10.1111/jcpt.12852.
- 3) Imai S, Kaburaki K, Miyai T, Kashiwagi H, Sugawara M, Takekuma Y.: Comparison of predictive performance of drug dose settings using renal function estimation equations based on the Japanese population: a preliminary retrospective study using vancomycin dosing data. *BPB Reports* 2019 Oct;2(5):80-85
- 4) Aoyama T, Shibayama Y, Furukawa T, Sugawara M, Takekuma Y.: Continuous cytostatic effects of BCR-ABL tyrosine kinase inhibitors (TKIs) after washout in human leukemic K562 cells. *Biol Pharm Bull* 2019 Nov 1;42(11):1805-1813
- 5) Saito Y, Yamada T, Kobayashi M, Sakakibara-Konishi J, Shinagawa N, Kinoshita I, Dosaka-Akita H, Iseki K.: Paclitaxel-associated acute pain syndrome similarly occurs in the patients with or without previously administered non-steroidal anti-inflammatory drugs prior to paclitaxel administration. *Yakugaku Zasshi* 2019;139(12):1601-1608. doi: 10.1248/yakushi.19-00148.
- 6) Sakamoto T, Saito Y, Kobayashi M, Yamada T, Takekuma Y, Nakai M, Ogawa K, Iseki K, Sugawara M.: Effect of palonosetron and dexamethasone administration on the prevention of gastrointestinal symptoms in hepatic arterial chemoembolization with epirubicin. *J Supportive Care in Cancer* 2019 Nov 16. doi: 10.1007/s00520-019-05178-1. [Epub ahead of print]

【和文原著・症例報告】

- 1) 山神 彰, 山田武宏, 北川善政, 大廣洋一, 佐藤淳, 石黒信久, 今井俊吾, 小林正紀, 井関健.: 下顎埋伏智歯抜歯術におけるセフカペンピボキシルとアモキシシリンの手術部位感染予防効果の比較. *医療薬学* 2019 May;45(5):254-261
- 2) 今井俊吾, 山田武宏, 笠師久美子, 小林正紀, 井関健.: ガンシクロビル誘発性血小板減少症の要因分析と Decision tree 解析を用いたリスク推定モデルの構築. *医薬品情報学* 2019 Jun;21(1):9-19
- 3) 堤竹蔵, 今井俊吾, 山田勝久, 山田武宏, 笠師久美子, 小林正紀, 井関健.: リネゾリド投与患者における嘔吐発現の因果関係の検証. *薬学雑誌* 2019 Jul;139(7):1055-1061
- 4) 新沼悠介, 今井俊吾, 山田武宏, 鏡圭介, 山神彰, 宮井貴之, 笠師久美子, 小林正紀, 井関健.: 腎機能低下患者へのバンコマイシン初回負荷投与の安全性調査. *TDM 研究* 2019 Sep;36(3):117-124

【ガイドライン・委員会報告・総説】

なし

【その他著書】

- 1) 樋口 一世.: お薬との上手な付き合い方 第 7 回 災害時のお薬(備え編). 月刊 糖尿病ライフ さかえ 7月号 2019 vol.59 NO.7
- 2) 樋口 一世.: お薬との上手な付き合い方 第 8 回 災害時のお薬(災害時編). 月刊 糖尿病ライフ さかえ 8月号 2019 vol.60 NO.8

【学会・講演会発表】

<国際学会>

- 1) Takekuma Y.: Improvement of renal function estimation equations for elderly Japanese people. The 5th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences (2019 Aug 30, Taipei, Taiwan)

<全国学会・シンポジウム等招待講演>

- 1) 石黒信久, 小山田玲子, 渡邊 翼, 岩崎澄央, 山田武宏.: インフルエンザ対策における予防投与. 第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会 シンポジウム 9「インフルエンザ対策」(2019 年 2 月, 神戸)
- 2) 齋藤佳敬, 小林正紀, 岡本敬介, 秋田弘俊, 井関健.: マグネシウム投与によるシスプラチン起因性腎障害の予防効果およびその機序の解明. 日本薬学会第 139 年会 シンポジウム 48 「第 2 回領域別専門薬剤師による clinical question の解決手段と、薬物療法のエビデンス創出に向けて」(2019 年 3 月, 千葉)
- 3) 笠師久美子.: スポーツ領域における適切な薬物治療. 日本薬学会第 139 年会 シンポジウム 23 「アンチ・ドーピングと薬学〜2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、現在 (いま)、我々が知るべき事そして為すべき事」(2019 年 3 月, 千葉)
- 4) 石川修平.: 統合失調症治療に対する薬剤師の関わり (現状と課題) . 第 14 回日本統合失調症学会 シンポジウム 4 「急性期治療における院内の多職種協働」 (2019 年 4 月, 札幌)
- 5) 武隈洋.: 心不全患者のカルベジロール血中モニタリングと光学異性体間相互作用. 医療薬学フォーラム 2019/第 27 回クリニカルファーマシーシンポジウム (2019 年 7 月 13 日, 広島, 広島国際会議場)

<全国学会・一般演題>

- 1) 山田武宏, 石川修平, 小林正紀, 石黒信久, 井関健.: 抗 MRSA 薬ダプトマイシンは骨格筋細胞にネクロシスを誘導する. 日本薬理学会第 92 回年会 (2019 年 3 月, 大阪)
- 2) 石川修平, 小林正紀, 橋本直樹, 三上英明, 山田武宏, 久住一郎, 井関健.: クロザピン誘発性流涎症の発現リスク因子と治療法の探索. 第 14 回日本統合失調症学会 (2019 年 4 月, 札幌)
- 3) 金森怜, 岡村圭祐, 松本健矢, 今井俊吾, 笠師久美子, 井関健.: 術後摂食障害に対する茯苓飲合半夏厚朴湯の有効性の検証. 第 3 回フレッシュズカンファランス(2019 年 6 月 16 日, 東京都, 帝京大学板橋キャンパス)

- 4) 今井俊吾, 山田武宏, 笠師久美子, 小林正紀, 井関健.: データマイニング手法を用いた副作用発現リスクの定量的評価モデルの開発～ガンシクロビル誘発性血小板減少症発現割合の推定モデルの構築～. 第22回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (2019年6月30日, 札幌)
- 5) 沖洋充, 山崎浩二郎, 熊井正貴, 古藤幸子, 本田秀子, 根岸淳, 菅原満, 南須原康行.: 医療事故の再発防止への提言(第3号)に対する取り組みーアドレナリン注射液0.3mg製剤の院内配置ー. 第14回医療の質・安全学会学術集会 (2019年11月29日～11月30日, 京都)

<学会地方部会・研究会・その他の院外における発表>

- 1) 齋藤佳敬.: がん薬物療法における薬剤師の役割. 抗EGFR抗体薬療法チーム医療セミナー (2019年2月28日, KKR札幌医療センター)
- 2) 鏡圭介.: 尿路感染症におけるASTの抗菌化学療法支援について. 札幌ザバクサ学術講演会～尿路感染症～ (2019年4月11日, ロイトン札幌2F リージェントホール)
- 3) 齋藤佳敬.: がん専門薬剤師によるがん薬物療法の有害事象軽減化への臨床的・基礎的アプローチ. 2019年日本薬学会北海道支部奨励賞受賞講演 (2019年5月18日, 札幌コンベンションセンター)
- 4) 齋藤佳敬.: 外来がん化学療法における積極的な薬物治療管理の必要性を考える. Chugai Colorectal Cancer Symposium in 西讃 (2019年5月24日, 香川県西讃)
- 5) 西村あや子.: 妊婦・授乳婦専門薬剤師の活動ー妊婦・授乳婦の薬物治療を考えるー 札幌病院薬剤師会 2019年度新人薬剤師研修会 (2019年6月5日, 札幌市教育文化会館 研修室305)
- 6) 小柳 遼.: IBD領域におけるステロイドについて. IBDメディカルスタッフ教育セミナー in 東京 (2019年7月28日, 東京)
- 7) 熊井正貴.: 集中治療分野における循環作動薬について. 日本集中治療医学会第3回北海道支部学術集会 第2回CEスキルアップセミナー (2019年8月, 札幌)
- 8) 石川修平.: 基礎・臨床研究の融合ー基礎・臨床一体型研究のすすめー. Psychiatry Next Generation～精神疾患とAMPA受容体を考える～
- 9) 鏡圭介.: 腹腔内感染症におけるASTの抗菌化学療法支援について. 札幌ザバクサ学術講演会～腹腔内感染症～ (2019年9月27日, ニューオータニ)

イン札幌 2F 鶴の間)

- 10) 菊谷由里香.: 病院薬剤師の卒後教育—レジデント修了生の立場から—. 北海道大学薬学部 第 22 回生涯教育特別講座 秋季講演会 (2019 年 9 月 28 日, 北海道大学薬学部臨床薬学講義室)
- 11) 武隈 洋.: 薬物動態情報を臨床現場で活用するために. 第 3 回薬薬連携を考える会(2019 年 10 月 5 日、北海道大学薬学部多目的講義室)
- 12) 齋藤 佳敬.: 増加し増加し続ける
免疫チェックポイント阻害薬投与患者への積極的な薬物治療管理の必要性を考える続ける. 薬剤師によるがん化学療法副作用マネジメント談話会 (2019 年 10 月 5 日, 中外製薬札幌支店)
- 13) 加藤信太郎, 小野田紘子, 今井俊吾, 熊井正貴, 武隈洋, 菅原満.: Performance status 不良群におけるナルデメジンの有効性の検証. 日本緩和医療学会 第 2 回関西支部学術大会(2019 年 10 月 20 日, 和歌山県立医科大学 紀三井寺キャンパス)
- 14) 齋藤 佳敬.: 症状と上手く付き合っていくために薬剤師ができること. パールリボンキャラバン 2019 in 札幌 (2019 年 10 月 19 日、TKP 札幌ホワイトビルカンファレンスセンター)
- 15) 菅野亮太, 齋藤佳敬, 山下啓子, 武隈洋, 菅原 満.: ドセタキセル誘発性の末梢神経障害に対する牛車腎気丸の予防効果の検討. 第 24 回札幌病院薬剤師会会員発表会(2019 年 11 月 9 日, 札幌医科大学 臨床教育研究棟 講堂)
- 16) 大聖貴之, 西村紗綾, 山崎浩二郎, 志賀弘康, 齋藤佳敬, 内山数貴, 坂本達彦, 武隈洋, 菅原満.: 外来化学療法における検査オーダー項目の確認及び提案の有益性. 第 24 回札幌病院薬剤師会会員発表会(2019 年 11 月 9 日, 札幌医科大学 臨床教育研究棟 講堂)
- 17) 渡辺祐子, 齋藤佳敬, 武隈洋, 菅原満.: monthlyTC 施行時のアプレピタントによる消化器症状予防・軽減効果の評価. 札幌病院薬剤師会 第 24 回会員発表会 (2019 年 11 月 9 日, 札幌医科大学 臨床教育研究棟 講堂)
- 18) 鏡圭介, 大聖貴之, 山崎浩二郎, 石黒信久, 遠藤努, 高畑雅彦, 武隈洋, 菅原満.: リネゾリドの血中濃度モニタリングにより血小板減少を回避し、治療が奏功した 1 例. 第 33 回北海道 TDM 研究会 研究発表会 (2019 年 11 月 16 日、北海道大学薬学部 臨床薬学講義室)
- 19) 石川修平.: 薬物治療の適正化における多職種連携～薬剤師の立場から～. 第 11 回 北海道がん医療心身ネットワーク研究会・講演会 (2019 年 11 月 23

日、読売北海道ビル) (Meiji Seika ファルマ株式会社主催)

<院内講演会等での発表>

- 1) 齋藤佳敬.: がん薬物療法における薬剤師の役割. (20190117年1月17日, 院内腫瘍センターセミナー)
- 2) 熊井正貴、樋口一世、久保田康生、鈴木幸司、菅原亮輔.: H31年度 歯科研修医オリエンテーション. (2019年4月2日, 北海道大学病院臨床研修センターセミナー室、医療情報企画部端末室)
- 3) 熊井正貴、樋口一世、久保田康生、小泉貴寛岩井美和子、小柳遼.: H31年度 医科研修医オリエンテーション. (2019年4月4日、5日, 北海道大学病院臨床研究棟1階大会議室、医療情報企画部端末室)
- 4) 菅原 満.: 薬剤の知識とリスクマネジメント. 平成31年度北海道大学病院初任職員オリエンテーション (2019年4月17日, 医学部学友会館フラテ大ホール)
- 5) 小林准.: PET 薬剤製造基準書・手順書等の変更と2018年度 [11C] L-メチオニン注射液の製造・監査報告. 2019年度 北大病院 PET 薬剤製造施設教育訓練 (2019年4月24日)
- 6) 菅原 満.: 危険性の高い薬剤の取り扱い. 令和元年度第1回異動後医師研修 (2019年4月26日, 医学部臨床講義棟 第4講堂)
- 7) 鏡圭介.: 抗菌薬適正使用について. 2019年度 医療安全管理部・感染制御部合同講演会 (春の合同講演会) 第1回目 (2019年5月21日、北海道大学病院医学部臨床大講堂・第3講堂・サテライト2F)
- 8) 鏡圭介.: 抗菌薬適正使用について. 2019年度 医療安全管理部・感染制御部合同講演会 (春の合同講演会) 第2回目 (2019年6月5日、北海道大学病院医学部臨床大講堂・第3講堂・第4講堂)
- 9) 鏡圭介.: セファゾリン供給不足の現状と対策. 多施設合同カンファランス (2019年6月11日、北海道大学病院医学部臨床大講堂)

- 10) 新沼悠介.: HIV 診療における薬剤師の役割 服薬指導の実際とポイント. 北海道エイズブロック拠点病院 HIV/AIDS 看護師研修 基礎レベル研修 (2019年7月19日)
- 11) 坂本 達彦.: がん化学療法薬の理解. 院内認定がん看護エキスパート陽性プログラム「ベーシックコース」(2019年7月23日)
- 12) 鏡圭介.: 抗菌薬適正使用について. 2019年度 医療安全管理部・感染制御部 合同講演会(春の合同講演会)第3回目(2019年7月26日、北海道大学病院医学部臨床大講堂・第3講堂)
- 13) 熊井正貴.: 薬の種類と取り扱いⅠ. 静脈注射エキスパートナース認定研修 (2019年7月31日)
- 14) 山崎浩二郎.: 薬の種類と取り扱いⅡ. 静脈注射エキスパートナース認定研修 (2019年7月31日)
- 15) 武隈洋、熊井正貴、沖洋充、樋口一世、水口貴史、豊田梓乃.: 危険薬の取り扱い. 医薬品に関する講習会(2019年8月21日、28日、北海道大学病院症例検討室Ⅰ)
- 16) 鏡圭介.: J-SIPHE 活用の実際 AMU 関連情報の入力とその活用. 多施設合同カンファランス(2019年9月17日、北海道大学病院医学部臨床大講堂)
- 17) 熊井正貴、斎藤佳敬.: 処方箋の書き方・オーダーリングシステム/がん薬物療法における薬剤師の役割. 医学部6年次「多職種連携・シュミレーション実習」(2019年9月25日、臨床講義棟1階第3講堂)
- 18) 武隈 洋.: 危険性の高い薬剤の取り扱い. 令和元年度第2会異動後医師研修(2019年10月8日、医学部臨床講義棟 大講堂)
- 19) 菊谷由里香.: 外見にかかわる化学療法の副作用～アピアランスケア～. がん患者さんと家族のためのがんサロンゆるりサロン(北海道大学病院外来新棟1階サロン)
- 20) 鏡圭介.: 抗菌薬適正使用について. 2019年度第2回 医療安全管理部・感染

制御部合同講演会（2019年10月23日、北海道大学病院医学部臨床大講堂・第3講堂）

- 21) 小林准.: PET 薬剤製造基準書・手順書等の変更について. 2019年度 北大病院 PET 薬剤製造施設 教育訓練（2019年10月30日, 北海道大学 医学部 5階 5-1 共通セミナー室）
- 22) 石川修平.: 高齢者に対する薬物治療の問題点. 認知症看護実践力向上研修（2019年11月12日, 症例検討室 1・2）
- 23) 内山数貴.: 抗がん薬治療時の吐き気と便秘の付き合い方. がん患者さんと家族のためのがんサロンなないろ（2019年12月20日, 北海道大学病院外来新棟 1階サロン）

【競争的獲得資金】

1. 科研費 若手研究（1名）
 - 1) 「シクロオキシゲナーゼ2選択的阻害薬がシスプラチン起因性腎障害に与える影響の検討」
（齋藤佳敬；2019-2021年度：課題番号 19K16437）
2. 科研費奨励研究（1名）
「統合失調症治療薬クロザピン誘発性流涎症の発現機序の解明」
（石川修平；課題番号 19H00354）
3. その他